

# 畜産振興対策はどのような考えか

## 様々な方策で対応する



宮本 昭一 議員

近年の本町肉用牛繁殖雌牛飼養農家戸数、飼養頭数及び年代別構成の推移はどのようになっているか。

### 飼養農家数は減少

町長

平成23年から5年間で戸数は155戸、飼養頭数は489頭減少している。年代別では平成28年12月末で70歳以上が162人で、全体の46・2%を占め、60歳以上になると261人で全体の74・4%を占めており、農家の高齢化が確実に進行している。

### 振興対策の考えは

宮本議員

高齢化により飼養農家戸数と飼養頭数が減少する中、本町の畜産が衰退することのないように、今後どのような振興対策を考えているか。

### 様々な支援をしている

町長

現在振興対策として、高齢者奨励金、農業振興資金を活用した繁殖雌牛導入費用の貸付制度、町畜産振興協議会においても様々な支援を行っている。昨年度から、ジェット煙霧機・超音波煙霧機の導入費用を補助する制度も新たに創設した。なお、畜産技術員の巡回指導も欠くことのできないものと考えている。

### 貸付額の引き上げはできないか

宮本議員

現在子牛等のせり市価格が高値で推移しており、畜産農家から思い切った導入ができないので、農業振興資金の畜産貸付額を引き上げられないかという声がある。現在の貸付額は平成26年4月から引き上げられているが、現在の価格と比較すると、大きな差が生じている。今のせり市価格に対応した貸付額に引き上げはできないか。

### 引き上げる方向で検討

町長

貸付額の引き上げ当時の、雌の子牛せり市価格は前年度平均が48万7千円で、平成28年度の平均が73万5千円であり、こ

3年間で25万円ほど上がっており、子牛導入の部分については貸付額を引き上げる方向で検討する。



子牛せり市状況

### くいの松原の景観を生かした構想は

宮本議員

くいの松原は、日本の白砂青松100選の中に入っており、自然が本町に与えた大事な宝物である。このような素晴らしい環境・景観を生かした整備計画を進めていくことが大事ではないかと思うが、町長としては何か構想を持っているか。

### 検討委員会を設置する

町長

県が整備を進めている「大隅陸上競技トレーニング拠点施設(仮称)」と連動し、スポーツ合宿誘致を進めるために、松林内を利用したクロスカントリーコースを整備する予定である。今後、「観光施設の在り方検討委員会」の意見等を踏まえ、計画づくりに努める。

### 補修対策はできないか

宮本議員

益丸プールが設置されてから50年以上が経つが、プール内の塗装の剥がれ、底盤の亀裂や塩ビシートがめくれて傷んでいる。子どもが足を引っ掛けて転倒する恐れがあるが、補修対策等はないか。

### 既定予算で対応する

町長

プール施設は安全性を最優先すべきである。緊

急性を考慮して既定予算の中で対応できる部分については、早急な対策を講じる。

### 増設の考えはないか

宮本議員

多目的芝生広場の公衆トイレに付随する足洗い場が一つしかない。町内外から多くの方々が潮干狩りに訪れているが、洗い場が狭く増設の要望があるが、増設できないか。

### 増設については検討する

町長

足洗い場の増設については、「観光施設の在り方検討委員会」の意見を参考にして検討したい。



足洗い場の設置状況